



頭は低く目は高く 口慎んで 心広く 孝を原点として 他を益する (大山倍達総裁語録)



極真への道

第7号～第3回愛媛県大会特集～

志賀賢一選手世界大会出場!

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場 機関紙

All Japan Kyokushin Union



組織の目指すべきビジョン

～我々は何を目標に歩いていくべきなのか～

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場
代表師範 戸田美智男

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、組織を創設して丸4年が過ぎようとしており、道半ばですが創設時よりも道場数や会員数が大きく増加し、大規模な県大会を開催できるほどに成長をしてきました。

私は組織を立ち上げた時から、3つのビジョンを掲げ道場生や道場責任者の皆さんに機会あるごとにお話をしてきました。

まず一つ目ですが、これは組織創設の前提となる最も重要な点で「大山倍達総裁の極真空手を正しく継承すること」です。

大山総裁が亡くなって20年以上が過ぎ、極真空手を修行している道場生でさえ、大山総裁が作られた極真空手の本来の技と精神を知らない人が増えてきています。

私が自ら、大山総裁の内弟子であった田畑繁師範の教えを請うために山形県総本部に修行に赴いたり、毎回、大山総裁ご存命時からの古い支部長方が指導される師範稽古に参加したりするのは、極真本来の技を学び更に総裁の哲学を皆さんに伝えるためなのです。

今後も、極真空手の技と大山総裁の思想を皆さんに伝えていきたいと思っています。

二つ目は「栄えある大会の開催」です。

昨年9月に開催した「第3回愛媛県空手道選手権大会」は、各流派の協力を得た上、会場を武道の殿堂である「愛媛県武道館」に移し、地上波のテレビ中継を行った上、テレビ局の協力を得てインターネット動画でも配信し世界中の人々に見ていただくようになりました。

マイナーなイメージがあるフルコンタクト空手ですが、注目されるチャンスを作ったのではないのでしょうか。

これからも多くの選手が出場してみたいと思う、栄えある大会を継続するつもりです。

三つ目は「強豪選手の育成と支援」です。

これは県大会主催者の我々が、迎え撃つ者として絶対に負けられないことや、全日本大会や世界大会で活躍できる選手を輩出するという夢を実現するためなのです。

毎月のように行う合同強化稽古や、優秀な選手に各種支援を行う「強化選手指定制度」など考えられる強化策を行ってきており、志賀賢一選手が昨年11月の無差別の全日本大会で7位となり来年の世界大会の出場権を獲得し、更に今年6月の全日本少年少女空手道選手権大会に9人が出場権を得るなど、大きな成果を上げつつあります。

その他、社団法人極真会館では、海外で開催されるワールドカップや世界少年少女空手道選手権大会等があり、努力をすれば世界に羽ばたくチャンスが沢山あります。

私は、これからも当初から掲げたビジョンの実現を図って、盤石な組織作りを行いたいと思っています。道場生や関係者の皆様方のご支援を宜しくお願い申し上げます。

第 47 回全日本空手道選手権大会志賀選手第 7 位 ～世界大会出場決定！！～

昨年 11 月 8 日(日)に代々木第二体育館で開催された「第 47 回全日本空手道選手権大会」に愛媛県戸田道場の代表として出場した志賀賢一選手は第 7 位に入賞し、来年 1 月に開催予定の「第 4 回世界大会」に日本代表として出場することが決定した。

夏場に腰を痛め、立つことさえ難しい状況であったが、何とか回復し 8 月に行われた香川県大会では決勝戦まで勝ち上がり、ラトビアの選手に判定負けしたとはいえ、準優勝となった。秋の愛媛県大会では念願の初優勝を期待されたが、第 4 位という結果に終わり、期待が強かっただけに本人はもちろん周囲の落胆も大きな状況であった。

それだけに志賀選手の全日本大会への意気込みは大きく、例年以上に稽古を重ねて大会に臨み、開会式での落ち着いた様子は自信の裏付けと見て取れた。

会場には大会会長の橋本聖子参院議員や笹川会長を初めとする全空連の幹部が見守る中で、ロシアの強豪選手 2 人とオランダの選手が 1 人出場した他、ロシア、オーストラリアの視察団が来場するなど国際色豊かな雰囲気となった。

志賀選手は 1 回戦の相手、東京都加藤道場の安本直也選手には、得意の突きと下段廻し蹴りが面白いように効いて本戦 5 - 0 で完勝し幸先の良いスタートを切った。

次の準々決勝戦は、1 回戦で強豪、宮崎県の山下武範選手を破り勝ち上がった福井県高橋道場の木下拓也選手と対戦、志賀選手が正拳突き、下段廻し蹴りで圧倒、これも本戦 5 - 0 で危なげなく勝利し念願の世界大会出場の切符を手に入れた瞬間であった。

次に迎えた準々決勝では愛媛県大会優勝者の関西総本部芦高侑平選手と当たり最終 30 秒までは、回転廻し蹴りなどの大技を出すなど互角の戦いであったが、最後の手数差で芦高選手の軍門に下った。

なお、芦高選手は若手のホープ宮崎県山下道場の重松翔選手に競り勝ち、決勝で 3 連覇を狙う長田裕也選手と互角に戦い、3 - 0 の僅差で敗れ、ワールドカップに続いて準優勝に輝いた。

今後、志賀選手は、愛媛での合同強化稽古参加は当然ながら、全国の各種大会に出場する他、他県の強豪道場での出稽古を行ない世界大会に備えることとしている。

戸田道場としては、最大の支援を行い世界大会での活躍を期待している。

日本選手の世界大会出場枠は、来年 6 月のウェイト制全日本大会 3 階級上位 2 人と世界各地大会の優勝者から選ばれる。

志賀選手のコメント「皆さまのご支援のお蔭で、念願の世界大会出場権を勝ち取れ有難うございました。大会では戸田道場のすばらしさを示すよう活躍したいと思います。」

入賞者～優勝 長田裕也(兵庫琉道会)、2 位 芦高侑平(関西総本部)、3 位 重松翔(宮崎山下)、4 位 石嶺雄大(兵庫琉道会)、5 位 増山隆太(東京広尾)、6 位 金鐘吉(関西総本部)、7 位 志賀賢一(愛媛戸田)、8 位 佐藤賢(東京佐藤)



第3回オープントーナメント愛媛県空手道選手権観戦記

～芦高侑平優勝 極真会館が牙城を守る～

愛媛県警極真空手部 東 元

昨年9月23日に、極真会館愛媛県戸田道場が主催する「第3回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」が、全国20流派から207人の強豪選手の参加により盛大に開催されました。

私達、愛媛県警極真空手部員も前日の会場設定、大会当日は審判、進行係、選手係と役割こそ違え組織の目的である「栄えある大会開催」のため、大会スタッフとして関わり、充実した時間を過ごさせてもらいました。

愛媛県が誇る武道の聖地、愛媛県武道館の舞台に入場する選手は、緊張した中に闘志溢れる表情で、司会のFM愛媛DJポン川村氏の軽快なアナウンスに、否が応でも大会ムードは高まります。

過去最多となる他流派や企業の代表者などの来賓が見守る中、華々しく始まった開会式が終わり、試合開始となるとムードは一変し激しい攻防が始まりました。

小中高校の部では、優勝、準優勝者には2016年6月に大阪府立体育館で行われる「全日本少年少女空手道選手権大会（通称 グランドチャンピオン大会）」の出場権が与えられるとあって、死に物狂いで試合に臨む選手達の壮絶な潰し合いが繰り広げられました。

全ての階級で、県内外の大会での上位入賞者が勝ち上がれない結果が続出し、愛媛県大会のレベルが飛躍的に上がっている現実を目の当たりにしました。

主催者たる戸田道場門下生の中で躍進を遂げたのは、小学1年生の福岡陽澄選手であり、ステップと上段廻し蹴りによって、対戦した強豪を逆転で倒し続け、決勝戦こそ極真関西総本部の林奎汰選手に惜しくも敗れたものの、初出場でグラチャンの出場権を得ました。

小学3年生決勝戦の餅田道場竹内悠翔選手と極真愛媛の松井瞭誠選手の試合は、両者が大会ベストバトルとも呼べる程の一進一退のハイスピードの攻防を繰り広げ、息つく暇もない試合は延長戦の末、竹内選手が栄冠を手に入れました。

小学4年生男子の部決勝の福田道場の植野元太選手と、極真愛媛の神原雅斗選手の戦いは両者とも突きと下段廻し蹴りを武器とする良く似たタイプで一進一退であったが、延長戦で植野選手の攻撃が上回り判定勝ちとなりました。

小学6年女子の部では、極真愛媛本部道場の近藤さやの選手が昨年と同じく決勝で、本年度グラチャン優勝者の極真清野道場の瀬切ひまり選手と戦い、後一步で及ばずに判定負けを喫してしまいました。

小学6年男子の部決勝では、極真愛媛の松井弥陸選手が、はるかに大柄な敬心館の黒帯、近藤巧実選手と延長2回を戦い、顔面殴打の反則を二度も受けながら競り勝ちし歓喜の涙を流したのです。

高校生以上女子の部決勝は、今治常盤道場の國本明佳選手と小宮舞永選手の同門対決となり、お互い手の内を知っていることから、なかなか差が開かず終了間近の國本選手の手数が認められ判定で優勝となりました。そして、サポーターなど防具を一切着けず闘う一般上級の部では、デンマークからの参戦を含む強豪選手の肉弾相対つフルコンタクトならではの攻防には、時には悲鳴に近い歓声が上がりました。

その中でも盤石の強さを見せ付けて勝ち進んだ極真関西総本部の芦高侑平選手と、愛媛のホープ志賀賢一選手を準決勝で破った道真会館の山下力也選手が相見えた決勝戦では、緊張感溢れる突きと蹴りの攻防が始まりました。

観客が固唾を飲んで見守る中、近い間合いから上段廻し蹴りを繰り出す山下選手に対して、リズムを取りながら胸もとに正拳突きを連打し、ペースを掴んだ芦高選手が5-0の判定で優勝を飾り、極真の牙城を守った

のでした。

その他、決勝戦にして秒殺で決まる試合、体力の極限まで戦い雌雄を決した試合、選手ごとのドラマが繰り広げられ、見る者に空手道の厳しさを痛感させるとともに、自分の得意の形を持ち、いかに自分の有利な展開に持って行くかが勝敗を大きく左右することを痛感したのでした。

本大会は、昨年より始まったあいテレビの中継効果も相成ってその注目度は年々増していますが、第3回大会にして、大会規模、試合レベルともに愛媛県内で開催される最高峰の空手道大会として位置づけられたことが印象づけられました。

さらに大会時に、黒帯、少年部、女子部、県警空手部による棒術等の演武が華を添え、充実した審判団、各スタッフによってスムーズな大会運営となりました。

大会終了後は、井上大会会長、七戸理事長、田畑副理事長など来賓にも参加頂いて打ち上げパーティを行い、一般部で入賞した志賀選手などが挨拶し、各道場責任者が来年度に向けた抱負を語り、80人の参加者共々来年の大会に向けた絆を深めたのでした。

なお、戸田道場の入賞者は15人となり、8月に行われた香川県大会、12月に開催された「大阪城杯 冬の陣」と合わせて9人がグラチャンの出場権を手に入れました。



少年部男女のホープ

極真愛媛強豪列伝

鉄壁の防御で常勝 松井弥陸選手(常盤道場)

弥陸と書いて「みろく」と読む。あの志賀選手に次いで2番目に強化選手に選ばれた小学6年生男子。昨年1年間、数多くの大会に出場したが、その中で特筆すべきは大洲少年大会、香川県大会、愛媛県

大会、そして関西の強豪が多く出場する究道大会の全てで優勝していることであり、その他出場した大会全部で3位内に入っている。

彼の持ち味は、早いステップと突きからの攻撃ではあるが、実は勝利の陰には鉄壁のガードがあげられ、技有りを取られたのを見たことがない。

勝利の法則は、高い構えと相手の攻撃に対する反応力である。唯一緊張時の反則に注意。

今年から中学生になるが、極真空手をずっと続けて一般部で活躍して欲しい逸材である。(写真右側が松井選手)



パワーは大人並み 近藤さやの選手(本部道場)

スパーリングで、同学年の小学6年生男子でも彼女が本気を出せば得意の下段廻し蹴りでKOされる。一般部が相手をしていても気を抜けば効かされてしまうパワーの持ち主。

第1回愛媛県大会で優勝、2、3回大会は、いずれもグラチャン優勝の岡山県清野道場、瀬切ひまり選手に判定負け準優勝となったが、連続でグラチャン出場権を獲得している。

ずば抜けたパワーの持ち主ではあるが、小柄でステップを使う早い攻撃の相手を苦手としており、それに対抗するために自らも早いステップと突き技を身に付ける必要がある。

彼女も今年中学生になるが、空手を続けて昨年の県大会女子部決勝で戦った、極真愛媛の国本明佳選手や小宮舞選手のように一般部でも活躍できる選手になることが望まれる。



(左側が近藤選手)

道場紹介 本部(潮見)道場の巻

今回は極真愛媛の総師戸田師範が指導する、総本山「本部道場」を紹介します。

本部道場は、戸田師範の熱い思いで14年前に久枝公民館と潮見公民館で「松山西道場」として開始し、平成15年10月に現在地に道場を建て潮見道場と改称して、新たにスタートをして12年が経ちました。

現在は黒帯10人を含む42人の道場生が在籍し、それに加えて松山市在住の県警極真空手部や愛媛県消防空手部の部員も稽古に参加しています。

通常稽古の他に、県内の道場生や如水会館など他流派も戸田師範の指導を受ける為に、しばしば出稽古に来ており、その他合同強化稽古や帯研などの研鑽の場になっています。

10代、20代の若者が5人しかおらず50歳以上の熟年層が多い現状、小学6年の近藤さやのさんと、小学1年の福岡陽澄君がグラチャン出場権を獲得したことが明るい話題。

12月の部内交流大会では型10人、組手6人が入賞し2016年は飛躍の年になりそうな予感がします。



全日本少年少女空手道選手権大・ウェイト制全日本空手道選手権大会(6月20日・21日 大阪府立体育館)

～愛媛勢全員、緒戦で惜敗・来年の勝利を誓う～

【グランドチャンピオン大会】

総勢490人の選手が出場したグランドチャンピオン大会は、超満員の観客で激しい応援が飛び交う中、愛媛から出場した高校重量級の小宮悠史(常盤)と櫻井隼人(川東)はそれぞれ延長となるも判定で敗れ、また小学6年男子の部、松井弥陸(常盤)、小学6年女子の部、近藤さやの(本部)の2人も判定負けとなり、いずれも初出場ながら大いに健闘したが、惜しくも全員1回戦負けというくやしい結果となり、全員が来年の雪辱を誓った。

【重量級】

重量級を制したのは、兵庫県琉道会館の長田裕也選手。初戦と準々決勝は突きを効かせて本戦フルマーク判定勝ちを決めた。準決勝で迎えた相手は、軽量級で何度も優勝している沖縄の喜久山泰道。喜久山選手は詰めすぎて押しによる注意を受け、長田選手に旗が上がる。もう一方のブロックは愛媛県大会の昨年のチャンピオンであり、本大会前回の覇者、金鐘吉選手と今年の愛媛県大会のチャンピオンである芦高侑平選手の関西総本部同士の対決であったが、金が過って顔面を殴打。芦高選手は気を一時失うほどのダメージを負いドクターストップで戦線離脱。金は反則失格となり、この時点で長田選手の優勝が決定となった。我らが志賀賢一選手は二回戦で他流派、武源の長身190センチある橋本亮選手に判定負けを喫してしまいワールドカップ出場が遠のいた。

【中量級】

中量級の決勝は2度の優勝経験のある極真会館坂本派の中島清貴選手が準決勝戦で兵庫県琉道会館の若武者、石嶺雄大と延長戦に至る接戦を制して勝ち上がり、一方は白蓮会館のホープ、福地勇人選手が準決勝で一本勝を収めて勝ち上がってきた。二人は遠間からの下段蹴りの出し合いから始まり、一進一退の攻防が続いたが、福地選手が終盤に膝蹴り連打で畳み掛け、中島選手を後退させ判定勝ちとなり、中島選手から初めて勝利をもぎ取り3年ぶりの優勝を果たした。戸田道場から出場した神原敏行は1回戦、白蓮会館の阿部展秀戦は上段廻し蹴りがさく裂し勝利したが、2回戦の極真沖縄支部の元世界戦士、照屋彰人選手の猛攻の前に判定負けした。

【軽量級】

決勝に勝ち上がったのは、共に準決勝を右下段廻し蹴りで一本勝を飾った白蓮会館の福地将人選手と極真会館カザフスタンのトレウオグ・ムラン選手の戦いとなり、序盤はトレウオグ選手の回転の速い鉤突きの猛攻に攻めあぐねた福地選手であったが、飛び込んでの胸元への突きと中段、下段廻し蹴りを連打で返し、形勢逆転し福地選手の初優勝となった。福地将大選手は中量級優勝の福地勇人選手の弟であり、嬉しい兄弟優勝となった。



(右側 神原選手)



(右側 志賀選手)

第21回全日本少年少女空手道大会出場選手の抱負

昨年の香川県大会、愛媛県大会で優勝、準優勝した他、大阪城杯冬の陣で第4位以上に入賞した選手9人が、今年6月に大阪府立体育館で開催される第21回少年少女空手道選手権大会(通称グラチャン大会)の出場権を得ています。選手の人達に大会に対する抱負を聞きました。



小宮悠史
(高校2年生)
去年負けた悔しさをばねに、強い気持ちで臨みたいです。



國本明佳
(高校1年生)
自分の力を出しきり、優勝できるように頑張ります。



松井弥陸
(小学6年生)
大阪に愛媛の力をみせつけてきます。



近藤さやの
(小学6年生)
去年よい結果が残せなかったのので、自分を甘やかさず日々トレーニングに励みます。



神原僚太
(小学5年生)
このグラチャンで練習の成果を発揮します。



神原雅斗
(小学4年生)
パンチ力とスピードを強化します。



北彩花
(小学4年生)
得意のパンチで勝てるように頑張ります。



松井瞭誠
(小学3年生)
僕はグラチャンで胴まわしで優勝します。



福岡陽澄
(小学1年生)
回り込みをして上段回し蹴りを決めて勝ちたいです。

夏に鍛える～猛暑が厳しすぎる夏合宿～

7月25日・26日(土・日)の2日間、大洲青少年交流の家で開催された夏合宿には、県内の各道場から過去最高の125人の参加があり、黒帯が31人も含まれて非常に盛況なものとなった。

戸田師範から「生涯続けられる空手」というテーマが示され、最も気温の高い午後2時30分から武道場で稽古が開始となり、基本では三戦立ちの正しい立ち方、移動では蹴りを含め前屈立ちの腰を低くすることを徹底して指導がなされた。

その後、のがれ(表・裏)や息吹の呼吸法を繰り返し稽古し、丹田呼吸の重要性を学んだ後、平安Ⅰの型の分解一本組手を交互に行った。参加者は、どちらも日頃、あまりやらない稽古であり当初は戸惑っていた様子であったが、徐々に身体が慣れて早く行えるようになってきた。

後半は、帯の色に分かれての型稽古や、戸田師範から喧嘩十段、芦原英幸先生直伝の各種「投げ」を教えていただき、最後に受け返しとスパーリングで3時間に及ぶ1回目の稽古を締めくくった。

武道場には、本年9月23日の第3回愛媛県大会のテレビ番組の映像撮影のために、あいテレビのカメラが入り気合の入った稽古の様子が撮影された。

ただ、今回も15～20分間に1回の休憩を取り水分を補給し、熱中症対策を行ったが、大事には至らなかったものの6人が気分が悪くなり稽古に参加できない状況となり、もはや近年の猛暑での夏合宿は危険すぎ、本年度は初夏か秋に実施して、参加者の健康を守る必要があると思われる。

夜は娯楽室において、子供達にはトランプとお菓子とジュースが配られ、大人は「酒業」と称した懇親会が行われ厳しい稽古の中休みで懇親を深めた。

翌日は、全員が午前5時に起床し、体幹を鍛えるトレーニングを行った後、6月22日(月)に大阪府立体育館で行われた極真会館沖縄支部の宮城師範の指導から得た2.5抜きの技と、7月4日(土)に極真会館兵庫県琉道會館の長田師範主催の「チャンピオンセミナー」で行われたキックミット稽古を、川東道場の濱井敦史3段と青野大輔責任者が指導を行い、参加者は目新しい稽古を必死で行った。

朝食後は交流の家のバスに乗って、肱川のカヌー乗り場付近の河原に行き、膝まで浸かり正拳突きを行った後、常盤道場の神原責任者などがスイカ貫手割りを披露し、道場対抗でのスイカ割り大会を行い、広い川原に歓声がこだました。

昼食後は、武道場で愛媛県大会の少年部演武の稽古を行なったのち、午後1時30分に解散し全員無事家路に着いた。



各種大会報告～入賞者が続出～

今年後半は、部内交流大会を除く16の大会に延べ134人の選手がチャレンジして、多くの入賞者が出ました。合同強化稽古など各種強化策の効果が証明されています。

◎瀬戸内ジュニア空手道リーグ戦 6月14日(日)グリーンピア玉川 秋山道場主催 36人出場

優勝 小1 福岡陽澄(本部)、小4 福岡洸大(本部)、神原雅斗(常盤)、小5 神原僚太(常盤)、鏡原琢矢(常盤)

準優勝 小1 寒作円(本部)、小2 越智和(常盤)、小2 小澤叶夢(西条)、小3 村上幸正(常盤)、小3 松井瞭誠(常盤)、小3 石村楓真(波方)、小4 富岡優斗(本部)、小4 扇山明直(波方)、小4 真鍋琉武(川東)、小6 遠山卓杜(常盤)



◎第10回新人戦拳武道大会 6月21日(日) 新居浜山根体育館 拳武道会館新居浜西支部主催 1名出場 一般上級 丹下英人(県警)

◎第20回桃花杯 6月28日(日) 丸亀市飯山総合公園体育館 無門塾主催 1名出場

35歳～40歳無差別の部 準優勝 藤原弘之(川東)

◎第18回西日本拳法道大会 7月12日(日) 新居浜山根体育館 拳剛会館主催 7人出場

小学3年生中級 優勝 山下駿、小学4年生中級 準優勝 神原雅斗、小学5年生上級 準優勝 山下凌 以上常盤

◎第4回究道選手権大会 7月20日(月 海の日) 神戸王子スポーツセンター 究道会館主催 2人出場 小学5年生男子の部 優勝 松井弥陸(常盤)

◎白鷺杯ライオンズカップ 8月23日(日) 愛媛県武道館 如水会館主催 13人出場

小学4年生男子の部 第3位 神原雅斗(常盤)、小学4年生女子の部 準優勝 北彩花(常盤)～両名とも4月2日開催のポイント&KO全日本大会出場権獲得

◎第32回ウェイト制全日本拳武道大会 11月1日(日) 新居浜山根体育館 拳武道会館主催 10人出場 小学3年生第2位 山下駿 小学4年生第2位 神原雅斗 小学5年生男子第2位 山下凌 小学6年生男子第3位 松井弥陸 一般女子優勝 國本明佳 以上常盤



◎中四国交流大会 11月29日(日) 香川総合体育館 極真会館香川県桑島道場主催 14人出場 幼年3位 津波古琉喜(常盤)、小学1年 3位 福岡陽澄(本部)、同3位 北光希(常盤)、小学2年(初級) 優勝 越智和(常盤) 同3位 池田翔真(常盤)、小学3年(中・上級) 3位 松井瞭誠(常盤)、小学4年男子(中・上級) 3位 扇山明直(波方)、小学4年女子 優勝 北彩花(常盤) 一般女子 優勝 小宮舞(常盤) 敢闘賞 小学4年 神原雅斗(常盤)



◎愛媛県少年少女選手権大会・一般新人戦 ウェルピア伊予体育館 正道会館四国本部主催
5人出場 小学4年生チャンピオンクラス3位
神原雅斗(常盤) 小学5・6年女子チャンピオン
クラス優勝 近藤さやの(本部) 壮年A2位
藤原弘之(川東)

◎大阪城杯 冬の陣 12月23日(水 天皇誕生日) 大阪中央体育館地下武道場 極真会館関西総本部主催 8人出場 一般重量級 優勝
志賀賢一(西条)、小学4年女子準優勝 北彩花
(常盤)、小学3年生男子3位 松井瞭誠(常盤)

6月・10月昇級審査

6月28日(日)に坊ちゃん球場スポーツフロア1で36人、10月4日(日)に愛媛県武道館剣道場にて59人が昇級審査を受審しました。

昨年中の入門者合計が約80人と非常に増加していることから、6月審査では12人、10月審査では20人の白帯が受審し、実に3分の1が初めて審査を受けるという状況となり組織の活性化が顕著な審査となりました。

厳しい審査の結果、下記の皆さんが合格しました。

【6月審査】

少年部 2級 渡部永久(川東) 3級 河田航太朗(本部) 林建作(本部) 4級

福岡洸大(本部) 矢野仁(波方) 5級 河田佳晃(本部) 6級
新田恭一郎(本部) 藤岡亨也(本部) 大西楓(西条) 半川周翔
(西条) 山下駿(常盤) 7級 寒作円(本部) 福岡陽澄(本部)

秦玲司(川東) 8級 秦友輝(川東) 越智龍(川東) 9級 阿部虎太郎(桜井) 森内瑛太(波方) 木村彰太
(波方) 10級 渡辺葵(波方)

岸本和也(波方) 矢野礼(波方) 木村美友(波方) 藤田皓雅(常盤) 池内琥星(味酒) 水本知希(大洲)

一般部 3級 高瀬充夫(西条) 4級 松井志輔(波方) 菊川姫梨(波方) 6級 右近勝夫(本部) 伊藤友紀
子(本部) 森本勝幸(大洲) 9級 末光史弥(大洲)



【10月審査】

少年部 2級 山下凌(常盤) 久保晴輝(大洲) 3級 山岡竜斗(大洲) 久保幸輝(大洲) 4級 藤本一輝
(川東) 松井亮論(波方) 山本珠莉也(本部) 5級 富岡優斗(本部) 宇高悠斗(本部) 西村朔(大洲) 野
洸誠(大洲) 6級 秦玲司(川東) 今井洸晴(波方) 三宅愛(波方) 壺内楓太(波方) 永井岳広(常盤) 二宮
快地(本部) 7級 秦友輝(川東) 越智龍(川東) 北彩花(常盤) 8級 小澤叶夢(西条) 石村楓真(波方)
八木幸保(波方) 林修作(本部) 伊藤銀河(本部) 9級 半川菜々美(西条) 俊野彩樹(空港通り) 相原海斗
(空港通り) 大野花菜(空港通り) 中矢爽太(波方) 北光希(常盤) 10級 佐々木瑛太(川東) 秦歩夢(川

東) 東優伸(常盤) 津波古琉喜(常盤) 井上元秀(常盤) 神原杏菜(常盤) 玉井翼(桜井) 木村壮真(波方)
菊川大翔(波方) 濱本太陽(波方) 東悠樹(本部) 清水航一郎(本部)

一般部 1級 山下学(常盤) 松井佑衣(波方) 八木聖矢(波方) 2級 濱井勇志(川東) 鳴田愛弓(波方)
武内悠大(波方) 3級 橋田虎之介(常盤) 5級 森本勝幸(大洲) 6級 進藤大(川東) 7級 相原博(西条)
相原美保(西条) 相原大地(西条) 相原いづみ(西条) 9級 濱田晋太郎(本部) 一色充(空港通り)



2015年6月～12月のトピックス&お知らせ

戸田師範 社団法人監事に就任

6月19日(金)大阪市内のホテルイルクオーレで開催された理事会において、戸田師範が社団法人極真会館の監事に選出されました。戸田師範の組織内における積極的な活動が認められ、加盟3年という異例の早さで幹部登用という結果となり、今後の組織の舵取りを担うことになりました。

チャンピオンセミナー参加

7月4日(土)に兵庫県立総合体育館において、極真会館兵庫県琉道会館(長田保師範)主催のチャンピオンセミナーがあり、戸田道場からは戸田師範、青野川東道場責任者、濱井川東道場指導員、山岡大洲教室責任者、そして櫻井隼斗(川東)、志賀賢一(西条)の現役選手の合計6人が参加しました。琉道会館は、言わずと知れた世界チャンピオン長田裕也選手など昨年のドイツで開催されたワールドカップに3人も出場した他、女子部も全国レベルの選手を輩出している(社)極真会館では全国トップクラスの道場であり、長田保師範の卓越した指導力は有名であり、参加者は全てを吸収しようと必死でした。長田師範の「強さの秘訣」と題する講話の後、各種ミットの稽古方法を学び、最後に強豪選手達と連続20人組手を行い、KOされるなど全員精根尽き果てました。



極真マスク マンダリンパイレーツ戦で始球式

4月28日(火)、極真マスクが愛媛マンダリンパイレーツの試合において始球式を行いました。愛媛県をスポーツ・武道で盛り上げたいという考えに共感してオファーをいただきました。ホームページにも「力が正義ではない、正義が力だ『極真マスクマン』坊ちゃんスタジアムに降臨！」と掲載され大々的に取扱っていただきました。また、今シーズン四国アイランドリーグ総合優勝し、独立リーグ日本一を決める決戦においては極真マスクは駆けつけ応援に尽力しました。



香川県大会 志賀選手準優勝

8月30日(日)香川町総合体育館で開催された香川県大会において、志賀選手は準優勝しました。7月の夏合宿時には、腰を痛め立っていることさえ難しく、椅子に座っての参加で出場さえ危ぶまれた状況でしたが、初戦こそ桑島道場の強豪平野選手と再延長までもつれこんだものの勝利を得た勢いで決勝に進み、ラトビアの選手に判定負けしました。なお戸田道場から17人が出場し下記の方々が入賞し、4人がグラチャン出場権を獲得しました。



【入賞者】 小学3年の部 準優勝 松井瞭誠、小学6年男子の部 優勝 松井弥陸、高校生女子の部 準優勝 国本明佳、高校生男子の部 優勝 小宮悠史、壮年の部 田中雅史 以上常盤 一般上級の部 準優勝 志賀賢一(西条)

みきゃん極真空手の稽古に参加

9月2日(水)、みきゃんが極真空手の体験入門のため本部道場にやってきました。みきゃんは基本稽古、移動稽古、型の稽古、組手稽古を体験して極真空手の厳しさと楽しさを学びました。極真空手の極意を学んだことで、酸いも甘いも噛み分る一皮むけたみきゃんとなったことでしょう。

また、道場生におきましても、みきゃんに負けないよう、いつも以上に熱心に稽古に励み、稽古を楽しみ、極真空手の素晴らしさを再認識することができました



愛媛県大会TV中継・インターネット動画配信

第3回愛媛県大会は10月31日(土)午後4時から約1時間、6チャンネルあいテレビ(TBS系列)により放映された。当日の愛媛新聞番組欄にカラー写真入りで紹介されたこともあって高い視聴率でした。また、翌11月1日(日)正午から同じ番組がインターネット動画で世界に配信されました。この他、戸田師範は、放映1週間前のインターネット動画番組で30分間、番組放映の宣伝番組に出演しており、新たなメディアを使った情報発信を活発に行なったのでした。

新たに強化選手B設立

本年度から従前の強化選手を強化選手Aと改称し、それに準じて優秀な大会成績を収めた選手を強化選手Bに指名して極真会館戸田道場の看板選手として、Aの指定を目指して活躍することを期待することになりました。12月の責任者会議において昨年1年間の大会成績を勘案し、下記の通り7人の強化選手Bが選出されました。なお、強化選手A、Bの選手は空手着の肩に強化選手を示すワッペンを張ることとなりました。

※強化選手Aに選ばれるには、(社)極真会館主催大会で年間2回以上準優勝以上入賞することが必要。強化選手Bの指定には、グラチャン出場資格獲得者、または(社)極真会館主催大会で4位以内入賞、他流派オープン大会で準優勝のどちらかの合計、もしくは別々の合計が年間2回以上必要。

小学1年 福岡陽澄(本部)同 北光希(常盤) 小学4年 神原雅斗(常盤)、小学5年 扇山明直(波方)、菊川真莉紗(波方)、小学5年 山下凌(常盤) 小学6年 遠山卓杜(常盤)

松井瞭誠選手・北彩花選手強化選手Aに指定

常盤道場の小学3年生松井瞭誠君は昨年度の大洲大会と香川県大会、愛媛県大会いずれも準優勝し、グラチャン大会出場権を得ている他、各種大会に出場して、多くの入賞をしており7人目の強化選手Aに選ばれました。また、常盤道場の小学4年生の北彩花選手は如水会館主催のライオンズカップで準優勝し全国大会に出場する他、桑島道場主催の中四国交流大会で優勝し、大阪城杯「冬の陣」では準優勝してグラチャン出場権を得るなど活躍しており8人目の強化選手Aに選ばれました。



第4回 愛媛県戸田道場交流試合観戦記

新居浜川東道場・新居浜警察署道場 濱井敦史

冬の風物詩、今年(2015年)の漢字は「安」に決定しました。しかし現代の世は、決して安らかで安心・安全とはいえません。空手を志す者はほとんどが強靱な体になりたい、心を強くしたい等、何らかの強さ逞しさに憧れそれを目指します。そして日々の稽古に打ち込み鍛錬を重ねるのです。その結果自分の心や体がどのように変化しているのか試す場が必要となります。

平成27年12月13日、ついにその時がやってきました。参加者は入門間もない初心者から、さらに上



の段階に飛躍したい中堅の道場生まで総勢120余名。部内交流試合としては質量ともに昨年の大会を上回るものとなりました。

さて午前中は「型」の試合です。型ほど稽古量がものをいう競技はないでしょう。基本、移動の動きを極限まで簡素化し具現化した型は、自分との闘いです。幼年や小学生のあどけないながらもひたむきで一生懸命な姿は、見ている者もついつい引き込まれ、拳を握り応援してしまいます。一般部の力強く迫力満点の型、そして女子部の華麗で流れるような型、それぞれが型の良さを存分に発揮した素晴らしいものでした。高得点を出した選手は例外なく気合いが大きく気迫あふれる演技でした。この姿勢は組手にも通じるものがあります。

午後からは「組手」のトーナメントが行われました。実力伯仲の中、勝ちあがる選手は決してあきらめない気持ちを持続させた者たちでした。大きな相手にもひるまず突進する幼年や小学生。恐怖心などみじんも感じさせない強い心が感じられます。小学生も高学年になると、しっかりした技術、コンビネーション、ステップワークを使い華麗な組手です。一般部は文言絶句。肉を切らせて骨を断つがごとく、フルコンタクト空手の醍醐味を十分に味わせてくれました。

参加者全員がこの出場経験を社会生活や学校生活に生かし、さらなる飛躍を目指して稽古に励んでくれることを祈ります。

最後にひとつだけさびしく感じたことは、これからの戸田道場を担う中高校生や女性の出場選手が少なかったことです。今後空手道の底辺を広げ、武道精神を通じて社会に貢献できる人材を育成するうえでも若者や女性の会員が増えてほしいものです。

交流試合は年々充実して素晴らしいものになっています。戸田師範はじめ師範代、各道場責任者の皆様に感謝申し上げます。押忍。



県警・消防空手部合同稽古と懇親会開催

12月20日(日)に本部道場において、県警極真空手部と県消防空手部の合同稽古が行われた。戸田師範の指導で基本、移動を行った後、ステップ、三戦の型など空手本来の呼吸法、そして輪受けによる投げなど、日頃あまり稽古しない技の指導を受けました。夜は東京第一ホテルで懇親会を行い、胸襟を開いて空手や業務の話をする等交流を深めました。2つの空手部員は県民の安全、安心を守るという重要な仕事を行っており、今後も定期的に合同稽古を行なうこととしました。



第18回大洲少年大会開催

第18回大洲少年空手道大会が、愛媛県警極真空手部の運営で3月6日(日)に大洲市総合体育館で開催されます。近年、全国大会入賞者が出場するなど、勝利のみを追求する傾向が強くなり、愛媛県警が推進する青少年健全育成を目的とする「ヤング3S運動」の趣旨に合わなくなったことから、今回から小学3年生から6年生まで、帯の色により初級と上級に分けて、経験が少ない選手も出場できるようになりました。

第4回愛媛県大会 7月18日開催決定

第4回愛媛県大会が、7月18日(月 海の日)に愛媛県武道館主道場で開催することが決まりました。戸田道場からも多くの選手が出場して頂点を目指しましょう。

2016年 行事予定一覧表

戸田道場行事	他県・他道場行事
1月10日：寒行稽古(大角海浜公園)	1月31日：第2回ローズカップ選手権大会 (志琉会主催 福山市ローズアリーナ)
1月23～24日：冬合宿(大洲青少年交流の家)	2月11日：第1回宮崎県大会 (極真会館宮崎県山下道場主催)
2月7日：昇級審査(県武道館副道場)	2月21日：広島県宗政道場練習試合 (極真会館広島県宗政道場主催東広島運動公園)
2月14日：滝浴び(菊間町 霧合いの滝)	3月20日：第23回沖縄県大会 (極真会館沖縄支部主催)
3月6日：第18回大洲少年空手道大会 (大洲市総合体育館)	6月未定：全日本少年少女大会・全日本ウェイト制空手道 選手権大会
4月10日：昇段審査(本部道場)	2017年1月：第4回世界選手権大会(極真会館)(沖縄)
7月18日：第4回オープントーナメント 愛媛県空手道選手権大会(県武道館)	